

南紀熊野ジオパークにおけるユニバーサルデザイン・ジオツアーの 展開可能性*

山口 弘幸**

Possibility of Development of Universal Design Geotour in Nankikumano Geopark

Hiroyuki YAMAGUCHI**

要旨

南紀熊野ジオパークのユニバーサルデザイン化の推進を目的に、障害者や高齢者に配慮した魅力あるジオツアーの企画開発の検討を行った。既存のジオツアーコースの存在とバリアフリー環境及び駐車場や宿泊先等の状況を踏まえる中で、串本・古座川地域が最も企画開発の実現可能性が高いことが見い出せた。ユニバーサルデザイン・ジオツアーの展開可能性を高める検討課題として、ハードとソフトの両面からみた環境改善の検討、魅力ある体験プログラムの掘り起こしとプロモーション、地元タクシー会社との連携による介護タクシーを活用した観光プランの創設、滞在型観光に向けた他地域のコース設定の検討の必要性について考察することができた。

南紀熊野ジオパークと地域の関係団体との協議や連携のもと、行政やユニバーサルツーリズムツアーセンター等による支援を取り込みながら更なる検討を進めていくことが重要である。

I. はじめに

ジオパークは、科学的かつ文化的に貴重な地質遺産をもつ自然公園であり、「大地の公園」を意味している。観光資源として地域の活性化を担う役割や地球科学や環境教育の利活用、地震や洪水等の防災活動への貢献に期待が寄せられている。こうしたジオパークとユニバーサルデザインとの関連において、「日本ジオパークネットワーク」が示すジオパークの自己評価表Aの項目には、インフォメーションセンターにおける障害者への対応項目の他、ジオツーリズムに関するチェック項目として障害者用メニューの有無が位置づけられており、ユニバーサルデザインの視点から点検・開発を実施していくことは、ジオパークが持続的に多彩な旅行者を受け入れていく上で重要な課題

となっている。そしてこれらの検討は、身体障害者のみならずシニア層をも対象としたユニバーサルツーリズムの受け入れ態勢の整備や誘客対策につながり、ジオパークの魅力の一層の浸透とともにシニア市場の開拓を見すえた地域の観光振興に資するものであるとも考える。

筆者は地元長崎の島原半島ユネスコ世界ジオパークにおいて、既存のジオツアーとバリアフリー環境及び駐車場や宿泊先等の状況の調査を踏まえる中で、ユニバーサルデザインに対応したジオツアーの企画開発の検討を行ってきた。拠点施設及び周辺ルートの多目的トイレの調査を行う中で、現行の各施設の取り組みを踏まえつつ、配慮や課題点を明示する中で、適切な情報提供と無理のないバリアフリー状況の改善、内部資源の育成と利活用、外部サービスの取り込み、受け入れ体制強化を推進する組織との連携を行うことが、ジオパークのユニバーサルデザイン化を推進する上での課題であると考えている。

そうした問題意識を基底に据えて、本研究では、南紀熊野ジオパークのユニバーサルデザイン化の推進を目的に、ユニバーサルデザインの観点から各拠点施設の点検及び開発を実施するとともに、周辺環境としてのバリアフリーに対応した宿泊先や食事処等の検討や福祉タクシーの活動状況を調査し、積極的なバリアフリー情報の発信に向けた基礎的資料の制作を行う。それらを踏まえて南紀熊野ジオパークのユニバーサルデザイン・ジオツアーの展開可能性について検討を行いたい。

II. 調査の展開とモデルコースの地域選定

調査の対象地域として、南紀熊野ジオパークのインフォメーションセンターを中心とした周辺地域を対象に、①白浜・すさみ周辺地域、②串本・古座川地域、③太地・那須勝浦・新宮地域、④新

* Received October 1, 2021

** 鎮西学院大学 現代社会学部 社会福祉学科 Faculty of Contemporary Social Studies, Nagasaki Wesleyan University, 1212-1 Nishieida, Isahaya, Nagasaki 854-0082, Japan

宮・北山・十津川地域の4つのブロックに分けてモデルコース地域の選定について検討を行った。

調査の方法としては、ユニバーサルツーリズム推進の観点から、①対応可能性のあるジオ資源の洗い出しと点検、②車イスユーザーやシニア等が安心して旅行ができる環境把握の2つを目標に、以下の観点から現地視察調査及び拠点施設関係者にインタビュー調査を実施した。

①対応可能性のあるジオ資源の洗い出しと点検では、安全管理の観点から路面や段差等の状況把握やトイレ及び駐車場等についてハード面の強みや課題、課題がある中でも人的なソフト面での対応可能性についても必要に応じて聞き取り調査を実施した。

②車イスユーザーやシニア等が安心して旅行ができる環境把握では、各地域の観光協会や市町村の観光課への聞き取り調査及び現地視認調査を実施し、バリアフリーに対応した旅館やホテル、食堂やお土産処、福祉タクシー等の移動支援事業者の対応状況の調査を進めた。

調査期間は2021年8月31日から9月5日である。4つのブロックのコース設定の実現可能性と困難性について以下のとおりであった。

白浜・すさみ地域

対応可能性のあるジオ資源として三段壁、恋人岬など海や海岸段丘にちなんだ見どころがあり、現在フェニックス褶曲の環境整備が進められている。宿泊先については白浜町に目途が見込めることもあり、コース選定のポテンシャルはある。ただ天候に左右されることやインフォメーションセンターの存立、展望所までの周辺環境の整備に課題があることを考えるとさらなる資源開発とともに時間をかけた検証が必要である。

串本・古座川地域

紀伊半島の成り立ちや奇岩・巨岩の神秘性と伝承などをテーマに、南紀熊野ジオパークセンターを起点としながら、南紀熊野の特色を抑えたジオストーリーを織りなせる恵まれた状況がある。見どころとなる拠点施設には道の駅が併設されており、食事、お土産処とジオ資源が一体化している中で、オストメイト対応の多目的トイレの設置状況も良好である。また車イス対応の宿泊先も見込めることなどコース選定に向けた条件が整っている。

太地・那須勝浦・新宮地域

世界遺産である那智大社の関連ジオ資源として那智の滝があり、展望所まで介助があれば行くことができる。また自然観察については宇久井ビジターセンターや浮島、防災にちなんだジオ資源として和歌山県土砂災害啓発センターなどの活用が見込まれる。コース選定の可能性は高いが、一貫したテーマ設定の検討や周辺バリアフリー環境の調査と環境整備が必要である。バリアフリー対応の対応力のある宿泊先についてはホテルが1か所あり、さらに障害のある方の旅行を応援するコンセプトの御宿が現在整備中である。

新宮・北山・十津川地域

北山川の観光いかだ下りや熊野古道トレッキングなど体験プログラムが充実しているが、安全性の観点を踏まえた環境整備が求められる。また周辺にバリアフリー専用の対応宿泊ホテルは存在しておらず、時間をかけた検討が必要である。

本調査では、南紀熊野ジオパークのユニバーサルデザイン化を推進するための具体的な検討方法として、ユニバーサルデザインに対応したジオツアーのコース設定を行うことを目的としている。対応力の高い串本・古座川地域の対象施設としては、①南紀熊野ジオパークセンター、②古座川の一枚岩、③高池の虫喰岩、④橋杭岩の4施設を選定した。選定理由は次の4点からである。

①ストーリー性のあるコース展開が可能

既存のジオツアーを踏まえたコース設定が可能であり、インフォメーションセンターを起点にすることで、紀伊半島の成り立ちをジオの観点から理解し、火成岩帯の特徴とそこにまつわる民話や伝承を踏まえつつ、奇岩や巨岩をジオストーリーとして楽しめるジオコースである。

②道の駅を併設した観光・食事・買い物の一体化の利便性の存在

見どころある観光資源とともに食事については南紀熊野の名物を食することができる食事処が2か所、お土産等の買い物ができる道の駅が3か所コース内に組み込まれており障害者やシニア層にとって利便性が高い。

③各拠点施設ごとに多目的トイレがあり、オストメイト対応の公衆トイレが多い

各施設ごとに多目的トイレがあり、それぞれがオストメイト対応である。さらに公衆トイレにおいても串本町はオストメイト対応のトイレ数が多く、安心して旅行ができる。

④雨天時でもジオ資源を眺望できる

南紀熊野ジオパークセンターの施設拠点のほか、自然資源である一枚岩、虫喰岩、橋杭岩とも車の車窓から全体像を捉えることができるため、雨天時に対しても対応力を有している。

南紀熊野ジオパークを4つのブロックに分けてジオサイトを巡検し、バリアフリー環境及び駐車場や宿泊先等の状況を踏まえる中で、モデルコース地域の可能性を検討した。上記の選定理由から串本・古座川地域が最も対応力があり、企画開発の実現可能性が高いことが考えられた。

Ⅲ. ユニバーサルデザイン・ジオツアーのコース設定の実地調査

串本・古座川地域でのユニバーサルデザイン・ジオツアーのコース選定の対応可能性を現実的に検討するために対象施設に対するバリアフリー調査を実施した。調査施設は、南紀熊野ジオパークセンター、古座川の一枚岩、高池の虫喰岩、橋杭岩の4か所と周辺ルートにおける多目的トイレの8か所である。事前にこれらのハード面、ソフト面からのユニバーサルデザイン対応状況について情報収集を行い、パンフレット等で積極的な情報発信を行うことを目指している。そのことが訪問意欲の喚起とコースの設置を目指した具体的な検討資料となることが推測されるためである。

バリアフリー情報の整理については、様々な旅行困難者が「使える情報」を目指して、「対応している部分」だけでなく「現段階では対応できていない部分」を踏まえて、旅行者側が自らの状況に応じて自己判断できるよう「留意点」の項目を設けている。訪れた車イスユーザーらが注意喚起等で判断できる情報の明示を目指している。そしてバリアフリー状況の情報発信については、障害者用の関連マークを積極的に採用した。その際「長崎市公式観光サイトあっ！とながさき」（ホームページ）の情報表記を参照・引用し、わかりやすい情報表記を目指した。またパンフレットからQRコードを介してバリアフリー情報を確認でき

る工夫を取り込んでいる。

各施設の概要及び調査結果については次の通りである。

Ⅲ－１．各拠点施設の対応状況

①南紀熊野ジオパークセンター

南紀熊野ジオパークセンターは、南紀熊野ジオパークの情報発信や調査研究の拠点となる施設である。館内には大型立体模型やプロジェクションマッピング、様々な体験装置もあり、南紀熊野の大地の成り立ちと自然の神秘について楽しみながら学ぶことができる。全館フラットで移動することができ、エレベーターは車椅子でも操作がしやすい。1Fインフォメーションセンターのカウンターでは車椅子の貸し出しやコミュニケーションカードが設置されている。ベビーケア設備には専用授乳スペースがあり、安心して来訪できる。

(写真1・資料1)

(写真1) 南紀熊野ジオパークセンター



(資料1) 南紀熊野ジオパークセンターのバリアフリー情報

○バリアフリー対応状況



○バリアフリー情報

車イス専用駐車場



センターには屋根付き1台、屋根なし1台があります。雨の日も濡れずに館内に移動できます。

ベビーケア設備



専用の授乳室があり、お父さん方も子供のオムツ交換ができるよう配慮がなされています。

○留意点

コミュニケーションカード



事務所窓口にはコミュニケーションカードが設置されています。気兼ねなくおたずねください。

体験コーナー



館内はフラットで多くの体験コーナーがあります。操作等で手助けが必要な場合はガイドに遠慮なくお声かけください。

②古座川の一枚岩

古座川の一枚岩は、冷え固まったマグマの塊が、大地の隆起によって地表に現れ、川に侵食される中で、巨大な岩の大屏風が形成されている。壮大なパノラマとともに古座川の清流を眺めることができる。「道の駅一枚岩」の駐車場から雨の日でも車の中から眺めることができ、地元ならではの食事やお土産などを購入することができる。駐車場にはオストメイトやおむつ交換台が設置された多目的トイレがあり、安心して訪問することができる。

(写真2・資料2)

(写真2) 古座川の一枚岩



(資料2) 古座川の一枚岩のバリアフリー情報

○バリアフリー対応状況



○バリアフリー施設情報

お土産コーナー



道の駅一枚岩では、車イスの目線からお土産を購入ことができ、カフェやランチも安心して楽しむことができます。

充実した多目的トイレ



オストメイトとおむつ交換台を備えた多目的トイレが設置されています。

○留意点

河川敷からの眺望



川のそばから一枚岩を眺める場合、坂道があるので介助者が必要です。河川敷の有料駐車場は道の駅で1,000円以上の買い物をすると無料になります。

多目的トイレの入り口



多目的トイレの入り口は国道側ではなく、川側にありますので注意してください。

③高池の虫喰岩

高池の虫喰岩は、火成岩の風化によって多数の穴が空いており、ハチの巣や人の顔にもみえる国の天然記念物である。守り犬の伝承や耳の病気を治す願掛けなど神秘的な言い伝えが今に伝えられている。「道の駅虫喰岩」の駐車場から雨の日でも車の中から眺めることができ、観光協会で観光情報を入手するとともにお土産や喫茶も楽しむことができる。駐車場にはオストメイトやおむつ交換台が設置された多目的トイレがあり、安心して訪問することができる。

(写真3・資料3)

(写真3) 高池の虫喰岩



(資料3) 高池の虫喰岩のバリアフリー情報

○バリアフリー対応状況



○バリアフリー施設情報

情報収集と買い物



観光協会が運営する道の駅が併設されており、フラットな環境の中で、情報収集や買い物、喫茶など安心して楽しめます。

充実した多目的トイレ



オストメイトとおむつ交換台が設置された多目的トイレが設置されています。

○留意点

道路の横断



虫喰岩をそばから眺めるには、道路を横断する必要があります。信号はありませんので、注意して渡ってください。

芝生のでこぼこ



虫喰岩のそばの芝生まで入ることができますが、路面がでこぼこしており、転倒や転落の危険があります。

④橋杭岩

橋杭岩は、串本から大島に向かって大小40余りの岩柱が列をなして、神秘的な景観を作り出している。弘法大師と天の邪鬼が賭けをして、一夜にして立てたという伝説が今に伝えられている。周辺には道の駅「くしもと橋杭岩」や食事処があり、フラットな環境で食事や買い物を楽しむことができる。道の駅のトイレには、おむつ交換台とオストメイトが設置された多目的トイレがある。
(写真4・資料4)

(写真4) 橋杭岩



(資料4) 橋杭岩のバリアフリー情報

○バリアフリー対応状況



○バリアフリー施設情報

買い物について



道の駅が併設されており、幅広くフラットな路面環境の中で、楽しみながらお土産を探すことができます。

多目的トイレ



多目的トイレには、オストメイトとおむつ交換台が設置されており、安心して利用することができます。

○留意点

干潟への立ち入り



様々な岩の連なりを海のそばで眺めることはできますが、車イスでの干潟の中への立ち入りは困難です。

食堂について



橋杭岩周辺には店内フラットな環境の食事処が点在しています。道路の往来には注意し、横断歩道を活用してください。

Ⅲ-2. 周辺ルートにおける多目的トイレの状況

外出の際、事前にわかると安心できるのが屋外トイレの場所である。コース設定をみすえた周辺ルートにおける多目的トイレの状況は以下の通り

であるが、オストメイト対応及びおむつ交換台についてはある場所とない場所があり、それらを踏まえた情報提供が設置推進とともに課題であることが見い出せる。(表1)

(表1) 周辺ルートの多目的トイレの状況

(2021年9月5日時点)

名称	オストメイト	おむつ交換台	備 考
①古座駅	○	×	
②水門まつり	○	○	フィッティングボード有り
③鶴川公園	×	×	ベビーチェア有り
④古座川保健福祉センター	○	×	
⑤馬坂園地	×	×	
⑥串本町立文化センター	○	○	
⑦月野瀬リバーサイド	○	×	
⑧有田公衆トイレ	○	○	

拠点施設及び周辺ルートの多目的トイレの調査を行う中で、インフォメーションセンターを起点に、道の駅や観光協会の拠点機能を取り込みつつ、干潟や河原等で一部配慮を要する点もあるが、適切な情報提供と無理のないバリアフリー状況の改善等を行えば、過重な負担なくコース設定が展開できることが考察された。これらの調査結果を踏まえて、ツアーコースのパンフレット(案)を作成したので文末資料として参照されたい。

Ⅳ. 南紀熊野ジオパークのユニバーサルデザイン・ジオツアーの展開可能性と検討課題

南紀熊野ジオパークのユニバーサルデザイン化の推進を目的に、障害者や高齢者に配慮した魅力あるジオツアーの企画開発の検討を行った。既存のジオツアーコースの存在とバリアフリー環境及び駐車場や宿泊先等の状況を踏まえる中で、串本・古座川地域が最も企画開発の実現可能性が高いことを見い出すことができた。

ユニバーサルデザイン・ジオツアーの展開可能性を高める検討課題として、①ハードとソフトの両面からみた環境改善の検討、②魅力ある体験プログラムの掘り起こしとプロモーション、③地元タクシー会社との連携による介護タクシーを活用した観光プランの創設、④滞在型観光に向けた他地域のコース設定の検討の4点が考えられる。

①ハードとソフトの両面からみた環境改善の検討については、坂道や傾斜のみならず河原や干潟などの自然景観と調和した環境改善のあり方について検討していく必要がある。その際ハード面の改善のみに依拠するのではなく、ソフト面の対応か

らも検討していくことが求められる。まずはコース上の危険箇所や留意点の共有やガイドの説明時の注意点など障害のある当事者の視点から学ぶなど、ハード面・ソフト面の改善に向けた気づきを深める研修や学習会を企画していくことが重要である。機運を盛り上げ地域の理解を拡げていく中で、行けるところでの検討にとどまらない模索が引き続き求められる。

②魅力ある体験プログラムの掘り起こしとプロモーションについては、旅行者のニーズ、障害の種別や程度も様々であるが、南紀熊野の自然の魅力を見るだけでなく、経験価値として体感していく機会を作り出していくことが重要である。南紀熊野の魅力の一つである古座川カヌーでは、特別支援学校等の受け入れ対応を既に行っており、カヌーはその特性上、肢体不自由者も健常者も同じ目線で楽しむことができるものでもある。古座川カヌーと障害者カヌーとのコラボレーションによる価値共創の中でブランディングとプロモーションができないか、障害者カヌーの団体との協議や障害者カヌーの講習会の開催などから可能性を検討していくことも重要である。

③地元タクシー会社との連携による介護タクシーを活用した観光プラン創設については、既に地元タクシー会社が本プランと類似する観光プランを有しており、タクシー運転手が観光ガイドの役割の一端を担っている。30分単位での料金設定がなされており、聞き取り調査の中では同等の料金設定の中で予備の介護タクシーの活用可能性があることを確認した。JR駅始発でコースをめぐり、終着をバリアフリーに対応したホテルにするなどのルート設定の中

で、病院送迎等の稼働状況にもよるが、ヘルパー資格を持つ移動支援の専門人材を観光活用ができないか外部資源の取り込みと対応力向上を目指した検討を行うことも必要である。

④滞在型観光に向けた他地域のコース設定の検討については、今回は串本・古座川地域で設定したが、白浜・すさみ地域及び太地・南紀勝浦・新宮地域においても宿泊先やジオ資源の状況からコース設定の可能性があることがうかがわれた。本プランのみならず他の地域にもいくつかコースがあることで滞在型観光としての経済的メリットが高まり、地域経済への波及効果が生まれることが推測されるため、他地域のユニバーサルデザイン・ジオツアーの設定可能性についても検討を進めていくことが重要である。

おわりに

本稿では、南紀熊野ジオパークのユニバーサルデザイン・ジオツアーの整備について、できることから始めるというスタンスで地域資源を点検し、コース設定を目指して展開可能性を検討してきた。ユニバーサルデザイン・ジオツアーの展開可能性として、串本・古座川地域が最も可能性が高く、ハードとソフトの両面からみた環境改善の検討、魅力ある体験プログラムの掘り起こしとプロモーション、地元タクシー会社との連携による介護タクシーを活用した観光プランの創設、滞在型観光に向けた他地域のコース設定の検討が実際の課題として考察することができた。本プランをたたき台に、ジオパーク関係者、観光協会、各拠点施設、障害当事者、有識者を交えた協議が求められる。そして本プランは特に障害者や高齢者の方をメインに受け入れ対応のあり方の検討を進めてきたが、これらはベビーカーへの対応にも通じ、さらに多言語化の対応まで検討が進めば、ユニバーサルデザイン・ジオツアーへの道がより切り開かれていくものと考えられる。地道に受け入れ対象を拡げていながら検討を続けていくことが重要である。

今後はジオパーク内部及び地域の関係団体との協議や連携のもとで、行政や全国的に立ち上がりつつあるユニバーサルツーリズムツアーセンター等による支援も取り込みながら、更なる深化と発展を期待したい。

謝辞

本研究は、令和3年度南紀熊野ジオパーク学術研究・調査活動助成事業の助成を受けて実施したもの

である。本調査に快くご協力頂いた南紀熊野ジオパークセンター様、道の駅「一枚岩」様、古座川観光協会様、道の駅「くしもと橋杭岩」様に心より感謝申し上げます。そして宿泊情報、介護タクシー、多目的トイレの状況等について情報を提供頂きました南紀串本観光協会様、串本タクシー様、市場ごはんしげ様、串本町産業課の方々にも厚く御礼申し上げます。

参考文献

- (1) 秋山哲夫・大西康弘・佐藤貴行「観光困難階層にとってのユニバーサルツーリズム」『観光科学研究』第6巻、pp.111-125、2013年
- (2) 飯島孝志「南紀熊野ジオパーク『プレートが出会って生まれた3つの大地』：大地に育まれた熊野の自然と文化に出会う」『経済情報』459、pp.9-15、2019年
- (3) 井上寛「高齢社会に向けた観光地のバリアフリー化：美の郷ゆざわジオパークを事例として」『ノースアジア大学国際観光研究』(8)、pp.63-76、2015年
- (4) 公益財団法人ちゅうごく産業創造センター「高齢化社会におけるユニバーサルツーリズムを軸とした観光振興施策の検討調査報告書」報告書、2015年
- (5) 鈴木博之、別所孝範「南紀熊野ジオパークセンターとジオサイトの見学」『地球科学』75(2)、pp.151-160、2021年
- (6) 竹内敏彦「ユニバーサルツーリズム促進に向けた考察—旅行業者の意識改革とその実践—」『日本国際観光学会論文集』第26号、pp.23-31、2019年
- (7) 南紀熊野ジオパーク推進協議会「南紀熊野ジオパーク大地に育まれた熊野の自然と文化に出会う」学習用ハンドブック第4版、2021年
- (8) 深見聡「ジオパークとジオツーリズムの成立に関する一考察」『地域総合研究』38(1)、pp.63-72、2010年
- (9) 山口弘幸「温泉観光地におけるユニバーサルツーリズム推進の視点と方法に関する一考察」『長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要』18(1)、pp.35-43、2020年
- (10) 山口弘幸・開浩一「島原半島ユネスコ世界ジオパークを活かしたユニバーサルツーリズムの整備に関する検討」『長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要』19(1)、pp.91-100、2021年

(文末資料) (仮称)「奇岩絶景と伝承を巡るコース」パンフレット案

和歌山県

南紀熊野 ジオパーク

NANKI KUMANO
GEOPARK

ユニバーサルデザイン・
ジオツアー(案)



プレートが会って生まれた3つの大地

～大地に育まれた熊野の自然と文化に出会う～

南紀熊野ジオパークは、プレートの沈み込みに伴って生み出された多種の大地(付加体・断層帯・火成岩体)、それらが作る独特の景観、温暖な気候がもたらす多様な動植物、そこから生まれた熊野信仰など、数多くの自然や文化を体験できる場所です。

ジオパークは、地域の成り立ちを知るだけでなく、歴史・文化・動植物・食などを通じて、大地と人の暮らしの関わりを実感して楽しむところです。

奇岩絶景と伝承を巡るコース






①南紀熊野ジオパークセンター

②古座川の一枚岩

③高池の虫喰岩

④橋杭岩

紀伊半島の成り立ちにおいて、様々な大地の鼓動が美しくも不思議な奇岩や巨岩を創りだしました。海・山・川の自然の造形美とそこに宿る民話・伝承から大地と人との暮らしの関わりを考えるコースです。

※上記コースはゆっくり回って概ね3時間となります。時間に余裕がある方は、「串本海中公園」もお楽しみ下さい。

食の恵み






ジビエハンバーグ シフォン

まぐろ丼 まぐろカツ冷やしぶっかけ

※ コース内店舗で召し上がれます。

海の豊かさ



障害者手帳により付添人1名まで半額となります。展望台と観光船には、階段等があります。

